

後期高齢者の面会による QOL 変化 ～SEIQoL-DW を用いた 介護老人保健施設入所者の調査より～

赤沼歩、高橋智美、大屋愛里
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】本邦は 2007 年から超高齢社会となり、今後も平均寿命の延伸が見込まれている。2000 年から推進されている「健康日本 21」では健康寿命の延伸及び生活の質 (QOL) の向上を実現することを目的としている。高齢化の進展に伴い要介護者も増加していき、介護保険施設の入居者も増えていくことが予想されるが、施設に入居する高齢者は在宅高齢者に比べて自由が制限されやすく、これは生活の質にも影響すると考える。先行研究より、面会が施設に入居する高齢者の主観的幸福感に影響を及ぼしていることは示唆されているが、実際に面会が QOL に影響を与えているのかは明らかにされていない。健康状態の評価でなく、現在の自分の生活に満足しているかを自己評価する QOL 評価尺度の代表は SEIQoL であり、面会による QOL の変化を評価するのに適していると考えた。本研究では、介護老人保健施設に入所する後期高齢者の QOL は面会をすることで向上するのかを SEIQoL-DW を用いて検証する。

【方法】

(1)研究方法：質的記述的研究 事例研究

SEIQoL は、Hammond's Judgment theory を基に一次的な QOL index score を算出する方法である。SEIQoL-DW は個人の 5 つの重要な Cue(生活領域)を VAS で測定し、ディスクを用いて重み付けする。そのレベルと重みを掛け合わせて積をもとめ総計したもの(0~100)が SEIQoL index score となる。

- ①調査方法；SEIQoL-DW を用いた半構成面接
- ②分析方法；記述統計（基本属性、SEIQoL index score の算出及び変化の検討）
- ③調査期間；2017 年 8 月 14 日～8 月 16 日

(2)研究対象：A 市近郊の介護老人保健施設に入所する 75 歳以上で、家族や友人等の面会があり、認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以下、質問への回答や筆記具・測定器具の使用が可能で、研究参加に同意が得られた 2 名。

【結果】対象は 80 歳台の女性 2 名で、属性を表 1 に示す。

事例 A の面会後の現在から過去を評価する面会前の回想では面会前より 16.4 上昇する Response shift 現象を示

表 1. 研究対象者の基本属性

事例	性別	年齢	介護度	入所期間	日常生活自立度
A	女	86	1	1467 日	Ⅱb
B	女	89	3	34 日	Ⅱb

表 2. 事例別 Cue の名称とレベル・重みの変化

事例	Cue の名称	面会前		面会后		面会前の回想	
		レベル	重み	レベル	重み	レベル	重み
A	1 自分の健康	51	35.5	77	50.5	98	20.0
	2 家族の健康	100	33.5	78	17.5	100	20.5
	3 孫・曾孫	86	22.0	79	15.5	100	20.0
	4 生活の中での楽しみ	100	4.0	100	8.5	100	20.0
	5 信仰	100	5.0	100	8.0	81	19.5
B	1 人間関係	72	5.0	85	9.0	65	7.0
	2 家族	96	79.0	97	61.5	78	66.0
	3 リハビリ	92	8.0	92	10.5	79	10.5
	4 テレビ	83	4.5	98	10.0	79	9.0
	5 生活環境	80	3.5	71	9.0	57.5	7.5

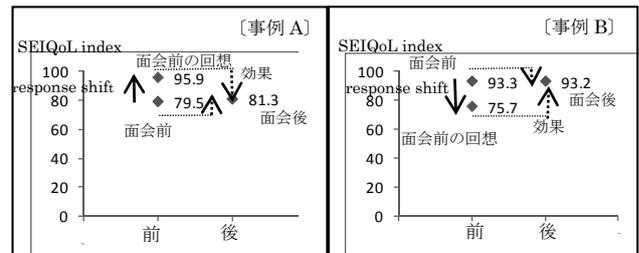


図 2. SEIQoL index score の変化

した。面会後の真の QOL 変化を評価する面会前の回想と面会後の差分は-14.6 と低下し、見せかけ上の QOL 変化を評価する面会前と面会後の差分は 1.8 と上昇した。事例 B の面会後の現在から過去を評価する面会前の回想では面会前より 17.6 減少する Response shift 現象を示した。面会後の真の QOL 変化を評価する面会前の回想と面会後の差分は 17.5 上昇し、見せかけ上の QOL 変化を評価する面会前と面会後の差分は-0.1 と減少した。

【考察】事例 A の面会前の回想の score は 95.9 と 3 回の面接の中で一番高い点数となった。これは事例 A が面会前のことを思い出すのが難しく「全部同じ位大切」と Cue のレベルと重みをそれぞれ等しく示したことが関係していると考えられる。また面会前の面接から面会後の面接までには 2 日の時間があつた。人は生きている限り内的判断基準を常に変化させるため Response shift 現象が生じる。そのため、A には QOL に影響を及ぼすなんらかの因子があつたことも考えられる。事例 B では面会前の回想から面会後の真の QOL 変化は上昇が示された。面会前の回想と面会後の「家族」の Cue のレベルが面会前の回想が 78、面会後が 97 と満足度が高くなっている。B は面会を「家族が自分を大切にしてくれているという実感が持てる」「家族が持ってきた好きな物を食べる事ができる時間」「『また来るね』の言葉が次回までの楽しみになる」と捉えていた。面会により、家族に対する満足感が向上することや家族と特別な時間を持てること、次回の面会が楽しみになること等が、面会による QOL の向上に繋がったと推察する。

【結論】介護老人保健施設に入所する後期高齢者の QOL は面会をすることで向上することが示唆された。今後は事例を増やし更に検証を重ねていきたい。